



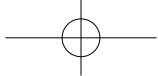
2020

パーム油白書



認定 NPO 法人
ボルネオ保全トラスト・ジャパン





はじめに

2020年冬から新型コロナのパンデミックのために、パーム油産業も多大な影響を受けています。2020年前半期の統計でみると、世界的なロックダウンの影響でパーム油の需要が減少しました。レストランなどの営業停止による食用だけでなく、バイオ燃料など輸送用も減少しています。一方、2大生産国であるインドネシアとマレーシアも、ロックダウンが繰り返され生産も滞りがちです。マレーシアでは、労働力不足で収穫できない事態も起こっています。

新型コロナなど新興感染症は、ほとんどが野生動物由来といわれています。今まで野生動物と共に森にいた細菌やウイルスが、開発に伴い人間の生息域に出てきてしまったと考えられます。新型コロナだけで、1年前には誰も想像していなかった大混乱に陥っています。また、ゾウなどの野生動物は新型コロナと関係なく、活発に活動しています。今こそ、人間が野生動物との共生を考えるときです。

東京2020オリンピック・パラリンピックに備え、日本企業はRSPOへの加盟、認証油の調達に努力してきました。認証油の購入にはたくさんのステップを踏まなければなりませんが、かなりの数の企業がクリアしました。新型コロナのパンデミック、オリンピックの延期で、持続可能なパーム油への試みはあまり注目されなかったようです。

脱炭素社会をめざすため再生エネルギーへの転換が試みられています。FIT制度という助成制度もあり、バイオマス発電、とくに木質チップやPKS、パーム油を原料とする発電に注目されています。海外からの輸入が多いことも問題視されおり、パーム油だけでなくPKSにも認証制度の適用が検討されています。

この白書では前半は2020年の記事、統計篇は、2020年に発表された2019年の数字です。この1年間、国際商品であるパーム油の状況は大きく変わりました。多くの方に読んでいただけると幸いです。

パーム油白書編集委員会（青木崇史、中西宜夫、森井真理子）

CONTENTS

マレーシアのアブラヤシ産業と新型コロナ
**新型コロナ感染拡大で、パーム油は需要、
生産とも大きな影響を受けています**
…P4 ～ P5

RSPO
**新型コロナでRSPO年次総会も延期。
国内のRSPO関係の動きをレポート**
…P6 ～ P7

RSPO加盟企業
**東京2020大会にそなえ
日本企業のRSPO加盟は急増しました**
…P8 ～ P9

統計1
世界の油脂事情…P10 ～ P11

統計1-1 主要17油脂生産量 統計1-2 5大植物油生産量変遷
統計1-3 5大植物油輸出量変遷 統計1-4 油糧作物別単収比較

統計2
パーム油…P12 ～ P13

統計2-1 パーム油の国別生産量 統計2-2 パーム油の国別消費量
統計2-3 パーム油の国別輸出量 統計2-4 パーム油の国別輸入量

統計3
パーム核油…P14 ～ P15

統計3-1 パーム核油の国別生産量 統計3-2 パーム核油の国別消費量
統計3-3 パーム核油の国別輸出量 統計3-4 パーム核油の国別輸入量

統計4
アブラヤシ栽培面積の変遷…P16 ～ P17

統計4-1 国別アブラヤシ収穫可能面積・単収 統計4-2 インドネシアとマレーシアのアブラヤシ栽培面積変遷
統計4-3 マレーシアの州別アブラヤシ栽培面積変遷 統計4-4 大豆とアブラヤシの栽培可能面積変遷

統計5
日本…P18

統計5-1 日本の植物油別供給量 統計5-2 植物油・大豆の輸入価格

緑の回廊プロジェクト…P19

表紙写真：アブラヤシ農園を闊歩するボルネオゾウの群れ／裏表紙写真アブラヤシ農園

新型コロナ感染拡大で、パーム油は需要、生産とも大きな影響を受けています

新型コロナの影響について、パーム油の統計面からは業界誌オイルワールド、サバ州の行政や業界の対応は現地の報道、移民労働者についてはNGOのレポートから抜粋してまとめてみました。現地のアブラヤシ農園については農園マネージャーに執筆していただきました。

世界の油脂の動向

2019/2020前半

オイルワールドのレポートから

主要油脂17の生産量は2019年後半から2020年前半にかけて60年ぶりに世界的に減少しました。要因は2つ、ひとつはアブラヤシとココヤシが異常な乾燥のために収量が落ちたことと前年までの高収量の反動というものです。

もうひとつは新型コロナのパンデミックです。2020年1月からの中国、それに続く世界各国のロックダウンで、レストラン、ホテル、ケイタリングサービスの長期的な閉鎖の影響で植物油脂の消費量は大幅に減りました。とくに、外食部門で揚げ物などに使われるパーム油に最も大きな影響がでました。

また、最近の植物油生産増加をけん引してきたバイオディーゼルの減産も影響しています。これは、ロックダウンと移動制限のためディーゼル消費量が減少したことと、インドネシアやマレーシアなどでバイオ燃料の強制ブレンド基準が履行されなかったためです。

新型コロナはインドネシアやマレーシアでも感染拡大しています。政府によるロックダウンや移動制限が行われ、アブラヤシ果房を適切な時期に収穫することができず、腐敗する怖れもあります。

また、マレーシアでは厳しい入国制限のため、労働者不足が起き収穫の遅れが危惧されています。(文責：中西宣夫)

マレーシア・サバ州政府のコロナ対策

現地の新聞報道から

パンデミック第1波 2020年3月

2020年3月初旬からマレーシアでも

コロナ感染者が出始め、3月18日マレーシア全土で活動制限令(MCO)が発令されました。

不要不急の外出は禁止され(罰金刑も)、食品や日用品の店、ゴミ回収、医療サービスなど必要最低限の活動(エッセンシャルサービス)を除き、商店やショッピングモールは営業停止、学校や礼拝所、役所も閉鎖されました。

しかし、パーム油産業関連の農園や搾油工場などは、国の経済に欠かせないエッセンシャルサービスと認定され、SOP(保健省が定めた操業基準)を遵守することで操業が認められました。

MCOは何回か延長され徐々に緩和されましたが、サバ州ではアブラヤシ農園、搾油工場で多数のクラスターが発生したため、当該地域の農園や搾油工場は閉鎖されていました。閉鎖された農園は、州の生産量の75%を占めていたため打撃は大きく、マレーシアのパーム油輸出は3〜4月の1か月間で約40%減少しました。パーム油業界団体は「2週間の操業停止で50万トンのパーム油が失われる」として、州政府に規制緩和を訴えていました。

4月、連邦政府はバイオディーゼル計画(B20、輸送用燃料にはパーム油を20%混ぜるという規制)の延期を決定しました。輸送用のB20、工業用のB7は年間で170万トンのパーム油需要が見込まれていました。

同じく4月サバ州政府はアブラヤシ農園の操業再開を条件付きで認め、5月にはパーム油の関税を引き下げたこともあり、6月からは徐々に輸出は回復傾向にありました。

一方、連邦政府が外国人労働者の新規

採用を2020年末まで停止したため、農園では労働者不足がおり、収穫することができない事態にも陥っています。

パンデミック第2波 2020年9月

9月末、サバ州では州議会選挙が行われ、その直後感染拡大、10月7日には条件付き活動制限令(CMCO)が発令され、何回か延長されました。農園は新SOPを守るという条件付き操業が許可されました。

10月、MPOB(マレーシアパーム油委員会)は「年末までの外国人労働者受け入れ禁止が続くと最大25%パーム油の収量が落ちる」と警告を発しました。MEOA(マレーシア農園所有者協会)は新SOPで操業が制限された場合、パーム油は30万トン生産量が減少し、税収にも悪影響を及ぼすという声明を出しました。

MPOA(マレーシアパーム油協会)は労働者不足解消のため、外国人労働者が再入国しやすいように検疫費用はMPOAが負担すると表明しました。

10月末、サバ州政府はパーム油産業に関して100%の操業を許可しました。

パーム油輸出も6月までは落ち込んでいましたが、関税引き下げや、経済活動が再開された国も増えたため、11月には輸出は回復傾向となりました。ただ、サバ州では、単位面積当たりの収量が27%減となりました。これは2019年秋の洪水の影響といわれています。

2021年に入り感染はさらに広まり、1月13日MCOが再発令されました。農園は新SOPに沿って操業されているものの、悪天候に見舞われ、2021年も厳しい状況が続くと懸念されています。(文責：岸 優子)

マレーシアの農園で働く 移民労働者と新型コロナ

NGO: FAIR LABOR の報告書より

マレーシアには移民労働者は300万人～550万人いて、労働力の30%を占めています。そのうちの220万人は登録されていますが、100～350万人は登録されていません（違法労働者）と推定されます。登録されていない移民労働者の公式的な統計はありません。

マレーシアのパーム油業界で働く労働者は45万人ですが、そのうちの約80%は移民労働者です。移民労働者の80～90%はインドネシア人で、主にパーム果実の収穫や集荷で働いています。

サバ州では2019年違法労働者を合法化するプログラムで、12万人を超えるインドネシア人とフィリピン人を登録しました。西マレーシア（半島）にはバングラデシュやインド、ネパールからの移民労働者がいます。

新型コロナ感染拡大によりマレーシアは大きな影響を受けていますが、中でも弱い立場にある移民労働者は下記のような問題に直面しています。

■収容所でクラスター発生

4月MCO（活動制限令）の間に2000人以上の違法労働者が拘束されました。このため収容所は過密になり、複数のクラスターが発生しました。6月末までに700人以上の違法労働者がコロナ陽性になりました。

■行き場をなくした移民労働者

MCO発令後は、国境管理が厳しくなり、違法労働者は働くことも帰国することもできませんでした。

■収入の減少

多くの労働者の賃金は出来高制ですが、SOPによる作業時間短縮で、労働者の収入は減少しました。また作業停止中は賃金が支払われませんでした。

■労働超過のリスク

労働力不足になった農園では、残った労働者が労働超過になるリスクがありました。

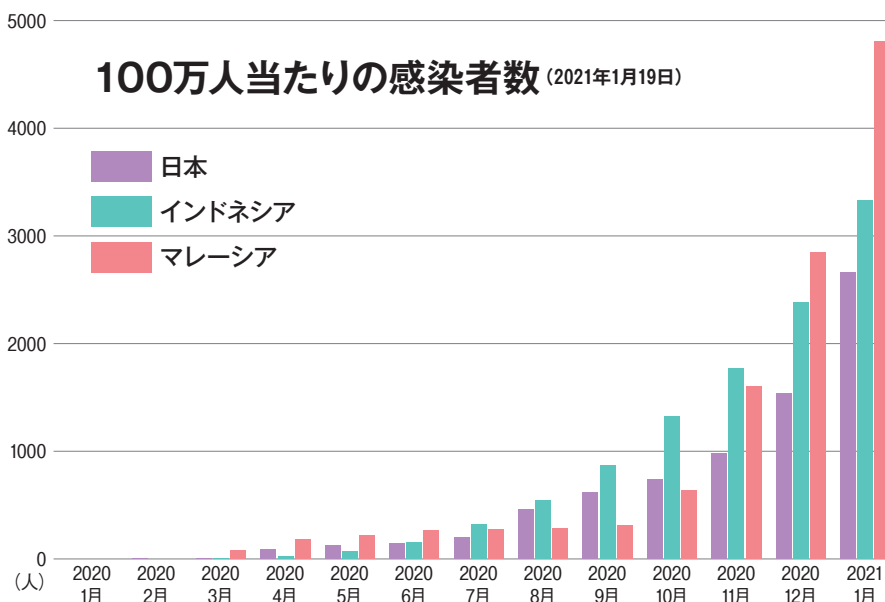
■労働環境の不整備

マスクや消毒液など衛生用品の不足、

日本・インドネシア・マレーシアの新型コロナ感染者数

(2021年1月19日)

	日本	インドネシア	マレーシア
感染者数	340,933人	927,380人	164,912人
死亡者数	4,680人	26,590人	619人
人口	1億2653万人	2億7063万人	3195万人



ソーシャルディスタンスがとれない職場環境、水や電気などが不十分な住環境はウイルス感染のリスクが増します。(文責：森井真理子)

アブラヤシ農園MOPPの取り組み シャフィーク氏(MOPP農園管理者)

ムランキン農園 (Melangkings Oil Palm Plantation MOPP) は、サバ州キナバタンガン下流域にある約8400haのアブラヤシ農園です。

持続可能なパーム油のために、MSPO認証を取得するとともに保全プロジェクトを推進しています。持続可能性は、事業が環境や人々に悪影響を及ぼさないこと、つまりパーム油産業は環境にやさしいものでないといけません。2019年から5年計画で森林再生プロジェクトに取り組み、360ha、56万本の苗木を植える予定です。オランウータンやゾウのための保全活動も行っています。

新型コロナ感染拡大はマレーシア特にサバ州では大きな問題となりました。パーム油産業も市場が冷え込み経済的な打撃を受けました。サバ州政府は2020年3月25日から31日までのアブラ

ヤシ農園の閉鎖を命じました。3月27日から31日までは、農園労働者の移動や集会を制限しました。目的は人と人が密になることで、人から人へ感染するのを防ぐためです。

当局の外出禁止令に従ってMOPPは農園を閉鎖しました。それだけでなく、第三者が農園に入ったり、労働者が居住地から外出することも制限しました。侵入されやすい場所には検問用のバリケードをつくり、9月25日、26日、28日にはスワブテスト（綿棒で鼻粘膜を採取してコロナ感染を調べる検査）、10月3日には抗原迅速検査を実施しました。

サバ州では、新型コロナは都市部がひどく、キナバタンガンエリアは影響が少ないです。これは私見ですが、緑が優勢だと新型コロナの広がりはないと思います。

今は、必要なすべてのSOP/StOP（作業基準）が厳密に守りつつ作業して実施されています。MOPPは、新型コロナに関して、注意深く、慎重に考え、持続可能な方法で生産性を最大限にあげていきたいと考えています。(文責：中西宣夫)

新型コロナでRSPOは年次総会も延期 国内のRSPO関係の動きをレポート

RSPO事務局があるマレーシアでは新型コロナのために移動制限令が発令され事務局は閉鎖、当初はオンラインで開催予定だった総会もキャンセルになりました。
コロナ禍での日本企業の持続可能なパーム油のための動きをレポートします。

RSPOの2020年の状況

RSPO（持続可能なパーム油のための円卓会議）は、2004年に、アブラヤシ農園、加工業者、消費財メーカー、金融、NGOなどパーム油のステークホルダーが設立した国際的な非営利活動組織です。RSPOのメンバーは約5000団体、メンバーのアブラヤシ農園面積は438万ha、パーム油生産量は1717万トン（19%）を占めます。

RSPOは持続可能性を担保するために認証制度を設けており、農園や搾油工場（ミル）に対するP&C認証、加工業者、消費財メーカーなどサプライチェーンに対するSCC認証があります。

認証油にはどこまでトレーサビリティがとれるかによってランク分けされています（表A参照）。

RSPOは毎年秋に年次総会が開催されますが、2020年は新型コロナのため開催できていません。

パーム油の認証制度にはマレーシア政府のMSPO、インドネシア政府のISPOもありますが、歴史が浅く、持続可能性の評価がまだ定まっていないよ

うです。

日本企業のRSPOに関する動き

東京オリンピック・パラリンピックの調達コードで認証パーム油が基準とされたため、日本企業のRSPO加盟は急激に増え、2017年77社でしたが、2020年には223社となり世界では5位になっています。

国内でのパーム油消費は80～85%が食用、15～20%が非食用（洗剤や界面活性剤、バイオ燃料など）です。RSPO加盟は当初は洗剤などの消費財メーカーが中心でしたが、今は大手食品メーカーが多数加盟しています。認証制度がより浸透してきたということでしょう。

また、再生可能エネルギーのバイオマス発電関係企業の加盟も増えてきました。

消費財メーカーが認証油を購入するには、自らがRSPOに加盟するだけでなく精製工場、加工業者、自社工場などパーム油が最終製品になるまでに関わる関係者のサプライチェーン認証取得が必要です。

欧米に比べると認証油への切り替え

が遅れていた日本ですが、自社工場のサプライチェーン認証を獲得する企業が増えてきたため、認証油への切り替えへのステップができたといえるでしょう。

具体的にどのように進んでいるのか、JaSPON（持続可能なパーム油ネットワーク）の理事企業で消費財メーカーの進捗を見てみましょう。出典は各社のサイトや新聞です。

資生堂 認証油（B&C）100%に切り替え済み。2026年までに、すべてのパーム油由来原料について、RSPO認証（MB以上）に切り替える予定。

サラヤ 2019年、自社製品（国内）はすべて認証油（SGとB&C）100%に切り替え済み。製品には認証マークを付けて販売。2030年に向けて国内外のグループ全体でRSPO認証を推進。また、小農からの買い付けなど小農のRSPO加盟支援も行っている。

花王 消費者向けの製品は搾油工場までトレーサビリティを取れるものに切り替え。2020年までにグループ工場のグループ工場のサプライチェーン認証を取得。インドネシアの小農が認証を取れるように支援するプログラムSMILE

表A RSPOの認証制度

認証モデル	方式	内容	認証マーク
IP (アイデンティティ・プリザード)	分離方式	P&C認証を受けた単一の農園から供給されたパーム油を原料として使用し、最終製品に至るまで非認証のパーム油の供給や流通から完全に切り離された商品。	認証 (CERTIFIED)
SG (セグリゲーション)	分離方式	P&C認証を受けた複数の農園から供給されたパーム油を原料として使用し、最終製品に至るまで非認証のパーム油の供給や流通から完全に切り離された商品。	
MB (マス・バランス)	管理混合方式	P&C認証を受けた農園の認証油が、流通過程で他の非認証油と混合されるモデル。認証油の量を管理できていれば、流通過程で混合しても構わない。	ミックス (MIXED)
B&C (ブック&クレジット)	台帳方式	P&C認証を受けた農園や搾油工場が、パーム油を生産量に基づいて証券化し、SCCS認証を受けた最終製品の製造者・販売者とオンライン上で取引を行う。商品に使用されるパーム油は非認証のものとなる、証書を購入することで生産者に金銭的な還元が行われる。	クレジット (CREDITS)

JasPON理事企業のRSPOマーク付き商品



ハッピーエレファント
洗たくパウダー
(サラヤ)



カップヌードル
(日清食品)



パックスベビー
ハンドソープ
(太陽油脂)



を、現地のアピカルグループとアジアナグリとともにスタートさせた。

ライオン(株) 2020年8月に、本社とすべての自社工場のサプラチェーン認証を取得。2020年末までにパーム油誘導体全量をRSPO認証油に切り替える予定。

太陽油脂 2013年自社工場のサプラチェーン認証を取得後、2015年から認証マークつき製品を販売。2020年4月に認証パーム油の(MB)を購入開始。

明治 2019年国内8工場の認証取得、2023年までに認証油(MB)への100%切り替えを目指す。

日清食品 2020年、国内工場のサプラチェーン認証を取得し、3月にはRSPO認証油(MB)を使った「カップヌードル」を認証マーク付きで発売開始。RSPO認証油の使用率はグループ全体で約20%(2019年)。2030年にはRSPO認証油100%に切り替える予定。

味の素 2019年、RSPO認証油の使用率はグループ全体で25%、日本国内では44%になる。RSPO認証油の調達に難しい地域では、農園までトレーサビリティが摂れているパーム油も持続可能な油と考えている。2020年には持続可能な油の使用率100%を目指しているが、それも含めた使用率は79%になる。

森永乳業 2018年、認証油(B&C)の購入を始め、2020年には認証油(B&C)100%切り替えを目指している。

現在、日本で一般向けに販売されている認証マーク付きの商品としては、サラヤの商品(パーム油を使ったすべての商品)、日清食品のカップヌードル、太陽油脂のソープのほかに、玉の肌石鹸の「タマノハダソープ」、創健社の「発酵豆乳入りマーガリン」、桜井食品の「さく

らいのラーメン」などがあります。

*以上の情報は文末のURLで確認できます。

パーム油発電・PKS発電

2017年FIT(固定価格買い取り制度)に多数申請されたパーム油発電ですが、稼働もしくは稼働予定の発電所は数か所にすぎません。

2020年6月、京都府舞鶴市のパーム油発電事業は、11000筆を超える反対署名が提出され、事業主体カナダのAMPエナジー社が計画を白紙撤回しました。

宮城県角田市に完成したH.I.S.SUPER電力のパーム油発電は「コロナ感染拡大で技術者が入国できないため」計画が遅れていましたが、1月27日稼働開始しました。

2021年4月から原料となるパーム油は、RSPO認証またはRSB認証(持続可能なバイオマス発電のための円卓会議)の加工・流通において非認証油と区別されたものに限定されます。すでに稼働しているパーム油発電も猶予措置を終え、2021年4月からは認証油を調達する必要があります。

また、パーム油のGHG排出量が化石燃料より多いので、パーム油が持続可能なバイオマス燃料として認められる可能性は低いこと、オレイン成分を含むパーム原油(CPO)は食料と競合することなどから、パーム油発電はFIT制度の支援適用外になる可能性が高いといわれています。パーム油発電の事業環境は厳しいといえます。

バイオマス発電の燃料としてパーム油に代わり、最近急激に増加しているのがPKS(アブラヤシの核の殻)です。アブラヤシの核(タネ)を絞って核油を

とりますが、含油率は50%と言われるので、殻の部分にもけっこう油分は残っています。

PKSの輸入量は2015年は45万トンでしたが、2019年には160万トンとうなぎのぼりです。単価はトン当たり11円と安価です。

現在は、PKSとパームトランクは、パーム油の副産物として、認証制度の対象外です。しかし、インドネシアやマレーシアから日本にはるばる運んでくるので、その過程でのGHGの排出量は大きなものです。

2020年4月のバイオマス発電事業計画策定ガイドライン改定では、PKSやパームトランクに対してもライフサイクルGHG排出量を含めた持続可能性基準をみたしたものを求めています。

(株)資生堂
<https://corp.shiseido.com/jp/sustainability/rights/pdf/guideline.pdf>

サラヤ(株)
<https://www.saraya.com/news/2019/114965.html>

花王(株)
<https://www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/klp-pr-2020-18.pdf>

ライオン(株)
<https://www.lion.co.jp/ja/company/press/2020/325620>

太陽油脂(株)
<https://www.taiyo-yushi.co.jp/rsपो/>

(株)明治
https://www.meiji.com/csr/gri/pdf/integratedreports/integrated-report_2018_all_print_JP_39.pdf

日清食品ホールディングス(株)
<https://www.nissin.com/jp/news/8342>

味の素(株)
https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/activity/csr/pdf/2020/SDB2020jp_083-086.pdf

森永乳業(株)
https://www.morinagamilk.co.jp/csr/pdf/2018/mn_sus2018_05.pdf

東京2020大会にそなえ 日本企業のRSPO加盟は急増しました

日本では、洗剤メーカーや化粧品メーカーがまずRSPOに加盟しましたが、ここ1～2年は大手食品メーカーが多数参加しました。バイオマス発電関係の企業も目立ちます。ここでは、RSPOのサイトにある日本企業のリストを掲載しました(2020年12月30日時点)。

正会員

消費財製造

(株) 亀田製菓^{※1}

加 2019/5/3 [W https://www.kamedaseika.co.jp](https://www.kamedaseika.co.jp)

(株) コーセー

加 2019/5/3 [W https://maison.kose.co.jp](https://maison.kose.co.jp)

当栄ケミカル(株)^{※2}

加 2019/5/3 [W http://toeichemical.co.jp](http://toeichemical.co.jp)

(株) ロッテ

加 2019/4/22 [W https://www.lotte.co.jp](https://www.lotte.co.jp)

日世(株)

加 2019/3/3 [W https://www.nissei-com.co.jp](https://www.nissei-com.co.jp)

マルハニチロ(株) 加 2019/7/4

[W https://www.maruha-nichiro.co.jp](https://www.maruha-nichiro.co.jp)

アサヒグループホールディングス(株)

加 2019/7/10 [W https://www.asahigroup-holdings.com](https://www.asahigroup-holdings.com)

(株) ブルボン

加 2019/10/2 [W https://www.bourbon.co.jp](https://www.bourbon.co.jp)

江崎グリコ(株)

加 2019/10/28 [W https://www.glico.com](https://www.glico.com)

(株) ポーラ・オルビスホールディングス^{※3}

加 2019/10/30 [W https://www.po-holdings.co.jp](https://www.po-holdings.co.jp)

森永製菓(株)

加 2019/10/30 [W https://www.morinaga.co.jp](https://www.morinaga.co.jp)

(株) やまひろ

加 2019/12/6 [W http://www.yamahiro.co.jp](http://www.yamahiro.co.jp)

(株) ペリカン石鹸

加 2019/11/29 [W http://pelicansoap.co.jp](http://pelicansoap.co.jp)

カルビー(株)

加 2020/1/14 [W https://www.calbee.co.jp](https://www.calbee.co.jp)

山崎製パン(株) 加 2020/2/21

[W https://www.yamazakipan.co.jp](https://www.yamazakipan.co.jp)

カゴメ(株)

加 2018/6/7 [W https://www.kagome.co.jp](https://www.kagome.co.jp)

フジパングループ本社(株)

加 2020/5/30 [W https://www.fujipan.co.jp](https://www.fujipan.co.jp)

日本ハム(株)

加 2020/8/11 [W https://www.nipponham.co.jp](https://www.nipponham.co.jp)

(株) 明治

加 2016/3/17 [W https://www.meiji.co.jp](https://www.meiji.co.jp)

三井化学(株)

加 2015/9/16 [W https://www.mitsuichemicals.com/index_jp.htm](https://www.mitsuichemicals.com/index_jp.htm)

太陽油脂(株)

加 2011/3/24 [W https://www.taiyo-yushi.co.jp](https://www.taiyo-yushi.co.jp)

(株) J-オイルミルズ

加 2011/10/31 [W https://www.j-oil.com](https://www.j-oil.com)

伊藤忠商事(株)

加 2006/6/12 [W https://www.itochu.co.jp](https://www.itochu.co.jp)

花王(株)

加 2007/4/4 [W https://kao.co.jp](https://kao.co.jp)

ライオン(株)

加 2006/3/26 [W https://www.lion.co.jp](https://www.lion.co.jp)

ミマスクリーニング(株)

加 2010/9/1 [W http://mimasu-cc.co.jp](http://mimasu-cc.co.jp)

サラヤ(株)

加 2005/1/17 [W https://www.saraya.com](https://www.saraya.com)

味の素(株)

加 2012/8/9 [W https://www.ajinomoto.com](https://www.ajinomoto.com)

玉の肌石鹸(株)

加 2012/10/12 [W https://tamanohada.co.jp](https://tamanohada.co.jp)

(株) コーブクリーン

加 2006/7/24 [W https://coopclean.co.jp](https://coopclean.co.jp)

(株) 資生堂

加 2010/8/10 [W https://corp.shiseido.com](https://corp.shiseido.com)

三洋化成工業(株) 加 2013/8/20

[W https://www.sanyo-chemical.co.jp](https://www.sanyo-chemical.co.jp)

タカナシ乳業(株) 加 2016/6/24

[W https://www.takanashi-milk.co.jp](https://www.takanashi-milk.co.jp)

岩瀬コスファ(株)

加 2017/4/10 [W https://www.cosfa.co.jp](https://www.cosfa.co.jp)

(株) ニイタカ

加 2017/6/2 [W https://www.niitaka.co.jp](https://www.niitaka.co.jp)

高砂香料工業(株)

加 2017/9/10 [W https://www.takasago.com](https://www.takasago.com)

日清食品ホールディングス(株)^{※4}

加 2017/10/22 [W https://www.nissin.com](https://www.nissin.com)

S&Bエスピー食品(株)

加 2017/10/22 [W https://www.sbfoods.co.jp](https://www.sbfoods.co.jp)

日本サーファクタント工業(株)

加 2018/1/15 [W https://www.ns-utsunomiya.com](https://www.ns-utsunomiya.com)

ハウス食品グループ本社(株)

加 2018/1/14 [W https://housefoods-group.com](https://housefoods-group.com)

森永乳業(株)

加 2018/3/22 [W https://morinagamilk.co.jp](https://morinagamilk.co.jp)

雪印メグミルク(株)

加 2018/7/10 [W https://www.meg-snow.com](https://www.meg-snow.com)

(株) 不二家

加 2018/8/27 [W https://www.fujiya-peko.co.jp](https://www.fujiya-peko.co.jp)

キューピー(株)

加 2018/6/28 [W https://www.kewpie.com](https://www.kewpie.com)

長谷川香料(株)

加 2018/6/28 [W https://t-hasegawa.co.jp](https://t-hasegawa.co.jp)

(株) ニチレイ^{※5}

加 2018/8/28 [W https://www.nichirei.co.jp](https://www.nichirei.co.jp)

(株) ダイセル

加 2018/8/28 [W https://www.daicel.com](https://www.daicel.com)

合同酒精(株) オノエングループ^{※6}

加 2018/12/13 [W https://onoen.jp](https://onoen.jp)

スジャータ めいらく(株)

加 2018/12/13 [W https://sujatha.co.jp](https://sujatha.co.jp)

東洋水産(株)^{※7}

加 2018/3/11 [W https://www.maruchan.co.jp](https://www.maruchan.co.jp)

パーム油製造・流通

明和エンジニアリング(株)

加 2019/1/17 [W https://meiwa-engineering.co.jp](https://meiwa-engineering.co.jp)

(株) ラディッシュ・ソリューション

加 2019/1/9 [W http://radish.co.jp](http://radish.co.jp)

日本精化(株) 加 2019/2/15

[W https://www.nipponseika.co.jp](https://www.nipponseika.co.jp)

LOPS(株)

加 2019/4/27 [W http://lops.co.jp](http://lops.co.jp)

岩谷産業(株)

加 2019/3/3 [W http://www.iwatani.co.jp](http://www.iwatani.co.jp)

HIS SUPER電力(株)

加 2019/3/22 [W https://www.his-power.jp](https://www.his-power.jp)

木村産業(株)

加 2019/5/5 [W http://kimsco.co.jp](http://kimsco.co.jp)

I&T.S.HD co.ltd

加 2019/9/12 [W http://pks-import.jp](http://pks-import.jp)

清田産業(株)

加 2019/6/28 [W https://www.kiyota-s.com](https://www.kiyota-s.com)

川研ファインケミカル(株)^{※8}

加 2019/8/16 [W https://www.kawakenfc.co.jp](https://www.kawakenfc.co.jp)

日本食品(株)

加 2019/8/16 [W https://nisshoku.co.co.jp](https://nisshoku.co.co.jp)

正栄食品工業(株)

加 2016/8/26 [W https://shoeifoods.co.jp](https://shoeifoods.co.jp)

住友商事(株) 加 2019/11/11

[W https://www.sumitocorp.com/ja/jp](https://www.sumitocorp.com/ja/jp)

東京産業(株)

加 2019/12/6 [W https://www.tscom.co.jp](https://www.tscom.co.jp)

長瀬産業(株)

加 2017/8/29 [W https://www.nagase.co.jp](https://www.nagase.co.jp)

青木油脂工業(株)

加 2020/4/20 [W http://blaunon.co.jp](http://blaunon.co.jp)

(株) ハシモトテクニカルサービス

加 2020/4/20 [W http://hashimoto-technical.com](http://hashimoto-technical.com)

(株) ブルーキャピタルマネージメント

加 2020/10/6 [W http://www.bcm-co.jp/](http://www.bcm-co.jp/)

丸善薬品産業(株) 加 2012/8/27

[W https://www.maruzen-chem.co.jp](https://www.maruzen-chem.co.jp)

日油(株)

加 2012/10/15 [W http://www.nof.co.jp](http://www.nof.co.jp)

阪本薬品工業(株)

加 2012/9/14 [W https://www.sy-kogyo.co.jp](https://www.sy-kogyo.co.jp)

日清オイリオグループ(株)^{※9}

加 2020/10/6 [W https://www.nisshin-oillio.com](https://www.nisshin-oillio.com)

不二製油グループ本社(株) 加 2004/9/8

[W https://www.fujioilholdings.com](https://www.fujioilholdings.com)

三菱商事(株) 加 2004/8/4

[W https://www.mitsubishicorp.com](https://www.mitsubishicorp.com)

三井物産(株)

加 2008/3/11 [W https://www.mitsui.com](https://www.mitsui.com)

2020開催予定だったオリンピックの調達基準では「パーム油は認証油」が基準とされていたため、日本企業のRSPO加盟の動きは活発です。

RSPOの会員資格は正会員、準会員、賛助会員の3つにわけられます。

正会員 (Ordinary Member)

アブラヤシ農園、パーム油加工・流通業者、消費財メーカー、小売業などパーム油取扱量が500トン以上のビジネス組

織や、金融、NGOが対象です。総会で投票権、すべての情報へのアクセス権を持ちます。年会費は2000ユーロですが、小規模農園や予算規模の小さいNGOは割引されます。毎年進捗報告書(ACOP: Annual Communications of Progress)の提出を求められます。

準会員 (Supply Chain Associate Member: SCA)

パーム油のサプライチェーンに関わり、パーム油取扱量が年間500トン未満の組

織です。総会に出席はできますが、議決権はありません。限定された範囲内での情報アクセス権があります。年会費は100ユーロです。

賛助会員 (Affiliate Member)

パーム油サプライチェーンに関わりはないが、RSPOの理念に賛同する組織や個人が対象です。年会費は250ユーロですが、ACOP進捗報告書提出の義務があります。

準会員 (SCA)

サプライチェーンアソシエイト

NS ファーファ・ジャパン(株) / THE SAKUEA GREEN(株) / (株)アイセロ / 築野食品工業(株) / セイワサプライ(株) / (株)ミルボン / 佐々木化学(株) / 比果産業(株) / 油脂製品(株) / 西野金穂(株) / 松山油脂(株) / DSP 五協フード&ケミカル(株) / (株)デイリー・インポート / (株)ネイチャーズウェイ / 睦物産(株) / (株)GSIクレオス / 住商ファーマインターナショナル(株) / BEENOS(株) / 今中(株) / (株)成和化成 / 大同化成工業(株) / 綿半トレーディング(株) / セティ(株) / 永和(株) / (株)シバハシケミファ / イワキ(株) / デルマール(株) / サン・バシフィック・エンタープライズ(株) / 日進コンサルタント(株) / (株)トキワ / (株)三陽商会 / (株)ビーバイ・イー / イヌイ(株) / KISCO(株) / 日産化学(株) / ケーアイケミカル(株) / ダイキン工業(株) / 南海化学(株) / UHA味覚糖グループ / 島貿易(株) / 蝶理(株) / 共栄社化学(株) / 太平化学産業(株) / トーエー食品(株) / 稲垣薬品興業(株) / 明光化学(株) / (株)テスコボレーション / 不二化成(株) / ナショナル美松(株) / 日比忠(株) / 加藤産業(株) / (株)永廣堂本店 / BIO ACTIVES JAPAN(株) / トーアス(株) / 東亜化成(株) / (株)岩田商会 / (株)立花商店 / 三晶(株) / (株)ホテイフーズ / 新日本ケミカル・オーナメント工業(株) / 久木田薬品工業(株) / 大阪油脂工業(株) / 林六(株) / 日本コーンスターチ(株) / 交洋ファインケミカル(株) / オークム通商(株) / 岡田興産(株) / 池田物産(株) / 東邦化学工業(株) / 日本エマルジョン(株) / 中沢乳業(株) / 三和油脂興業(株) / 東北化学薬品(株) / 油化産業(株) / 光洋商会(株) / 大東化成工業(株) / 兼松ケミカル(株) / ユニ・チャーム(株) / 池田薬草 / 千葉製粉(株) / (株)創健社 / 三洋貿易(株) / キリンホールディングス(株) / 東振化学(株) / 旭化成ファインケム(株) / 化成品商事(株) / (株)ファンケル / イエナ商事(株) / (株)マンダム / 研三商事(株) / (株)地の塩社 / (株)マツモト交商 / (株)日東物産商事 / (一社)ハンドソープ協会 / 北沢産業(株) / 森下仁丹(株) / 三好化成(株) / 桜井食品(株)

賛助会員

(一社)バイオエナジーネクスト / 個人

マークの読み解き方

加=加入年月日 W=WEB

双日(株)	加2014/2/14 W https://www.sojitz.com
月島食品工業(株)	加2014/10/24 W https://tsukishima.co.jp
丸紅(株)	加2015/2/22 W https://www.marubeni.com/jp/
新日本理化学(株)	加2015/7/9 W https://www.nj-chem.co.jp
豊田通商(株)	加2015/5/28 W https://www.toyota-tsusho.com
興和(株)	加2015/12/30 W https://www.kowa.co.jp
理研ビタミン(株)	加2016/1/12 W https://www.rikenvitamin.jp
(株)日本触媒	加2016/7/26 W https://www.shokubai.co.jp/ja/
丸善石油化学(株)	加2016/11/7 W https://www.chemiway.co.jp
昭栄薬品(株)	加2017/1/21 W http://www.shoei-yakuhin.co.jp
太陽化学(株)	加2017/2/14 W https://www.taiyokagaku.com
幸商事(株)	加2017/3/26 W http://www.saiwai.co.jp
研光通商(株)	加2017/7/2 W https://www.kenkoco.com
ミヨシ油脂(株)	加2017/9/21 W https://www.miyoshi-yushi.co.jp
三菱ケミカル(株)	加2017/11/7 W https://www.m-chemical.co.jp
(株)カネカ	加2017/8/17 W https://www.kaneka.co.jp
植田製油(株)	加2017/9/11 W https://www.uedaol.co.jp
(株)ADEKA	加2012/10/18 W https://www.adeka.co.jp
高級アルコール工業(株)※10	W https://www.kak.co.jp
汎アジア貿易(株)	加2017/10/19 W https://www.panasian.jp/Japansite/
日華化学(株)	加2017/11/13 W https://www.nicca.co.jp
カネダ(株)	加2017/12/14 W https://www.kaneda.co.jp
太田油脂(株)	加2018/1/14 W https://www.ota-oil.co.jp
オレオトレード・インターナショナル	加2018/3/22 W????

日光ケミカルズ(株)※11	W https://www.nikkol.co.jp
(株)小桜商会	加2018/5/31 W http://www.kozakura.co.jp
小倉合成工業(株)	加2018/6/5 W https://kokuragousei.co.jp
昭和産業(株)	加2018/7/17 W https://www.showa-sangyo.co.jp
テイカ(株)※12	W http://www.tayca.co.jp
喜多組商事(株)	加2018/7/17 Wなし
(株)日本発電工業	加2018/8/27 W https://nhkogyo.co.jp
第一工業製薬(株)	加2014/7/24 W https://www.dks-web.co.jp
岸本木材(株)	加2018/9/10 W https://www.ki-wood.com
横関油脂工業(株)	加2018/8/27 W http://yokozeki-yushi.jp
(株)クレアジャパン	加2018/11/16 W http://creajapan.jp
小松屋(株)	加2018/10/3 W http://www.komatsuya.co.jp
(株)創窓堂	加2018/10/24 W https://www.sousoudou.com
パームオイルエナジー(株)	加2018/11/22 Wなし
バイオマス発電(株)	加2018/11/22 W https://japanbiomass.co.jp
富士通商(株)	加2019/1/16 W http://www.fujitusyou.com
ゼロワットパワー(株)	加2018/11/29 W https://zerowattpower.co.jp

小売業

(株)セブン&アイ・ホールディングス	加2020/1/30 W https://www.7andi.com
日本生活協同組合連合会	加2017/10/25 W https://jccu.coop
イオン(株)	加2018/12/20 W https://www.aeon.info

環境NGO

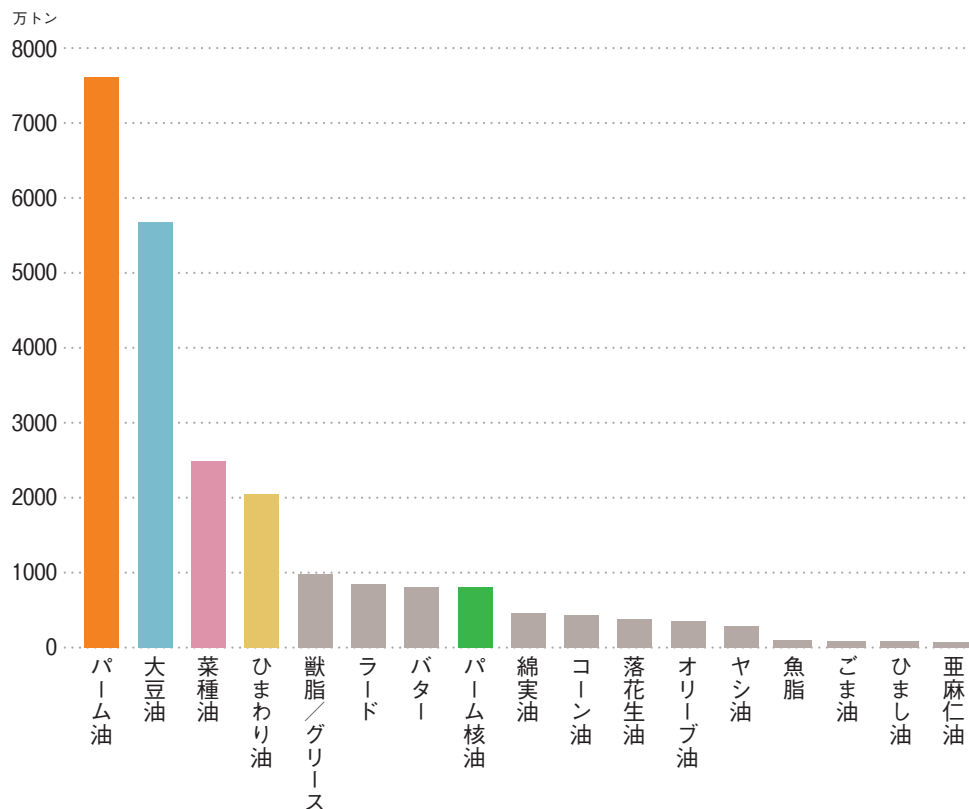
ボルネオ保全トラスト・ジャパン	加2019/5/27 W http://www.bctj.jp
-----------------	--

※10 準会員として2012年加盟 ※11 準会員として2011年加盟 ※12 準会員として2012年加盟

統計1 世界の油脂事情

統計1-1 主要17油脂別生産量(2019)

Source : Oil World Annual 2020



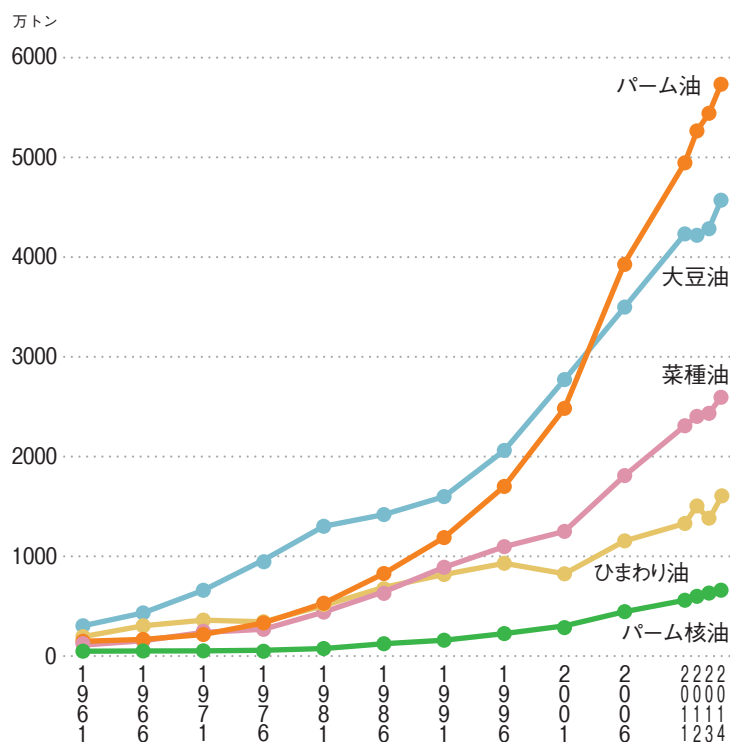
主要17油脂の生産量は2000年代に1億トン、2018年には2億トンを超えた。上位3位はパーム油、大豆油、菜種油である。

単位: 万トン

種類	生産量
パーム油	7606.4
大豆油	5681.6
菜種油	2494.2
ひまわり油	2054.3
獣脂 / グリース	984.4
ラード	852.1
バター	810.2
パーム核油	807.5
綿実油	456.3
コーン油	433.1
落花生油	376.6
オリーブ油	354.7
ヤシ油	291.3
魚脂	99.7
ごま油	87.5
ひまし油	84.8
亜麻仁油	73.0
合計	23547.7

統計1-2 5大植物油生産量変遷

Source : FAO STAT Date : 15.Dec.2020



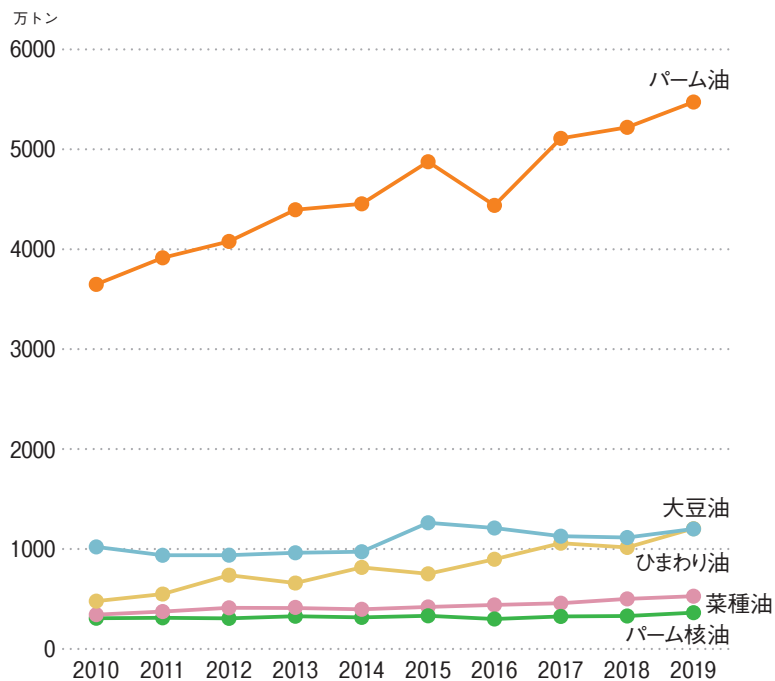
5大植物油はいずれも1960年代から生産量を伸ばしている。FAOのサイトは2015年以降のデータは記載されていない。

単位: 万トン

	パーム油	パーム核油	大豆油	菜種油	ひまわり油
1961	147.9	48.7	303.7	110.1	194.6
1966	166.6	51.0	432.7	153.2	303.4
1971	215.9	52.1	659.5	237.6	360.0
1976	332.2	58.2	962.5	268.4	343.7
1981	529.6	75.4	1301.2	440.9	505.3
1986	827.6	123.6	1418.7	644.5	689.8
1991	1187.9	158.8	1598.7	890.1	817.5
1996	1701.0	225.4	2061.6	1097.0	930.0
2001	2483.6	302.5	2771.8	1250.0	824.9
2006	3942.2	445.2	3498.7	1809.4	1154.9
2011	4945.0	559.6	4232.5	2308.9	1329.3
2012	5265.3	598.8	4218.7	2403.1	1505.0
2013	5441.9	631.4	4284.5	2433.6	1369.4
2014	5732.9	660.3	4570.5	2594.5	1584.8

統計 1-3 5大植物油輸出量変遷

Source : Oil World Annual 2020



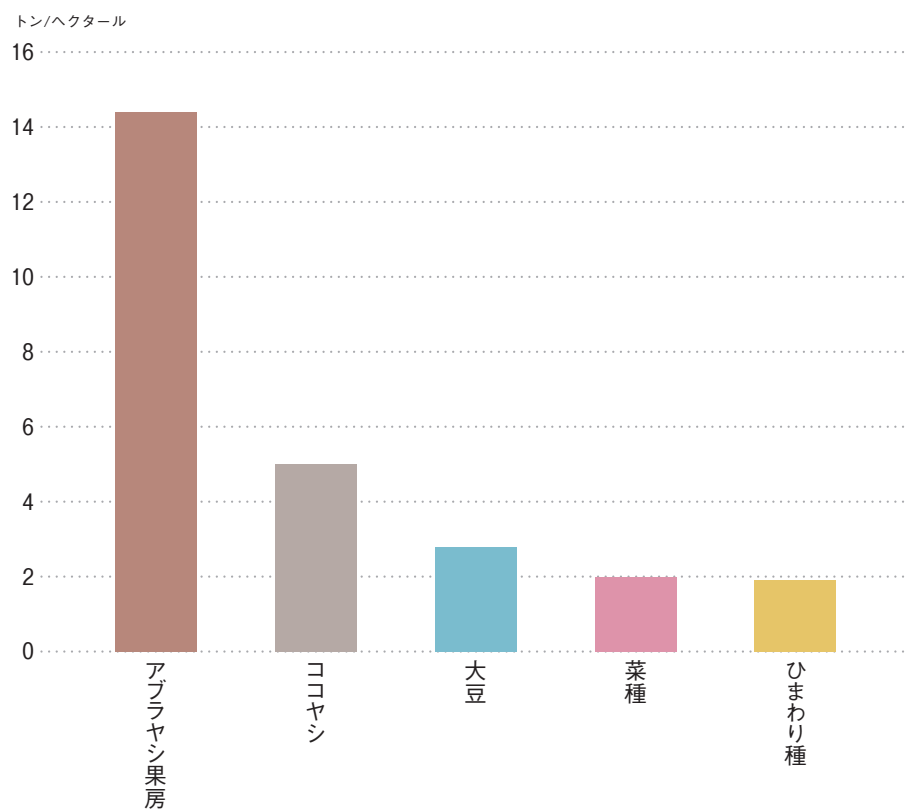
国際市場に出てくる5大植物油の総量は8700万トン、そのうちパーム油とパーム核油で66%を占める。

単位：万トン

	パーム油	大豆油	ひまわり油	菜種油	パーム核油
2010	3648.7	1021.2	478.4	343.3	307.2
2011	3914.6	937.8	549.3	374.1	311.6
2012	4078.5	938.4	738.2	411.7	306.0
2013	4395.7	962.4	659.5	409.5	327.3
2014	4454.9	972.9	816.2	396.8	315.8
2015	4876.1	1262.8	751.9	420.3	331.6
2016	4439.3	1210.3	897.6	440.4	299.7
2017	5109.9	1128.5	1058.4	457.7	325.3
2018	5220.5	1115.2	1015.7	500.9	329.7
2019	5473.7	1201.1	1206.6	527.9	362.9

統計 1-4 油糧作物別単収(2019)

Source : Oil World Annual 2020



含油率はアブラヤシが約25%、大豆は約20%、菜種が約40%といわれている。パーム油はヘクタール当たり約3.5トンになる。

単位：トン/ヘクタール

種類	収穫量
アブラヤシ果房	14.4
ココヤシ	5.0
大豆	2.8
菜種	2.0
ひまわり種	1.9

アブラヤシ果房

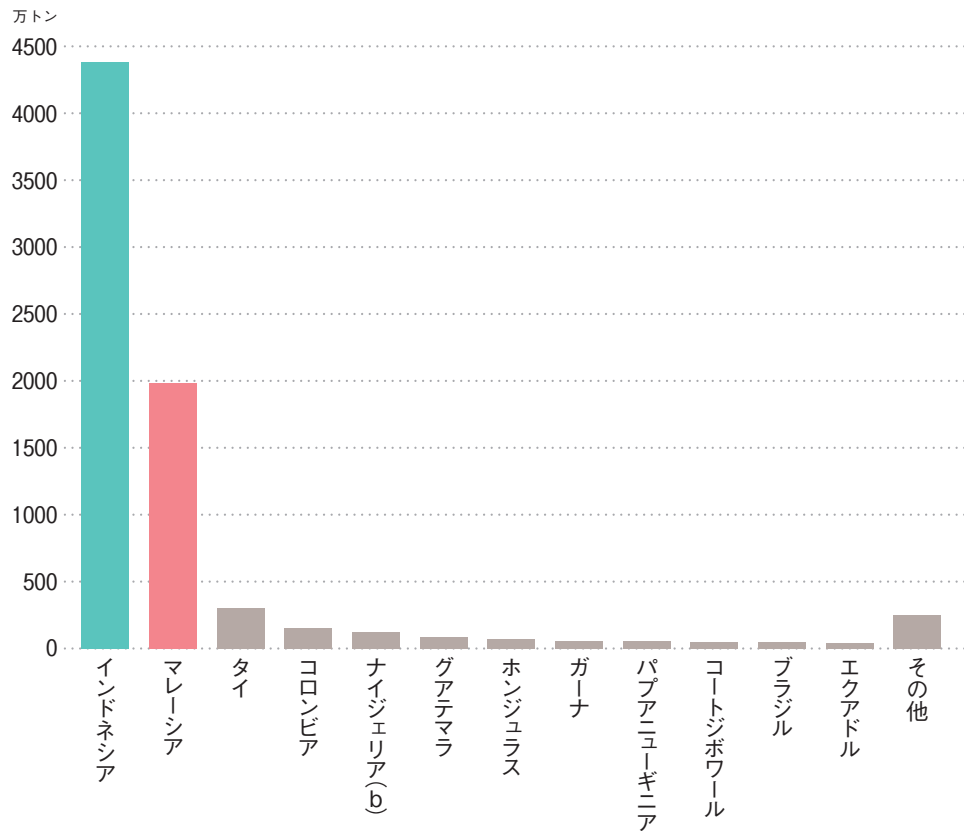


アブラヤシの実

統計2 パーム油

統計 2-1 パーム油の国別生産量(2019)

Source : Oil World Annual 2020



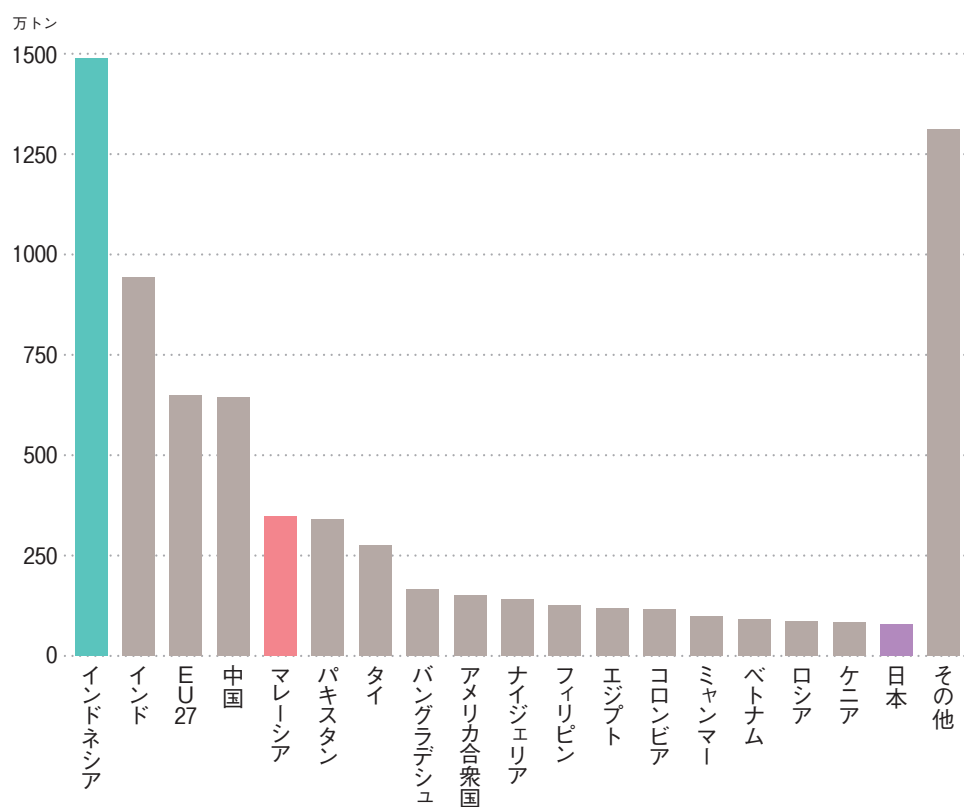
インドネシアとマレーシアの2大生産国で85%を占めるが、格差は大きくインドネシアはマレーシアの2倍以上である。

国名	生産量
インドネシア	4380.0
マレーシア	1985.8
タイ	305.0
コロンビア	152.7
ナイジェリア(b)	122.0
グアテマラ	88.0
ホンジュラス	70.7
ガーナ	56.0
パプアニューギニア	54.0
コートジボワール	51.0
ブラジル	47.0
エクアドル	42.5
その他	251.6
合計	7606.3

注: ナイジェリア(b)は商業用収穫可能面積のみ

統計 2-2 パーム油の国別消費量(2019)

Source : United States Department of Agriculture Year of Estimate : 2020



生産大国のインドネシアは、人口2.6億人を抱え消費量もトップ。中国、インド、パキスタンなど人口大国も消費量が多い。

国名	消費量
インドネシア	1,487.5
インド	943.0
EU 27	650.0
中国	644.5
マレーシア	347.5
パキスタン	340.0
タイ	275.0
バングラデシュ	165.0
アメリカ合衆国	149.5
ナイジェリア	140.0
フィリピン	125.0
エジプト	117.5
コロンビア	116.5
ミャンマー	99.0
ベトナム	91.0
ロシア	86.0
ケニア	83.0
日本	79.0
その他	1312.3
合計	7251.3



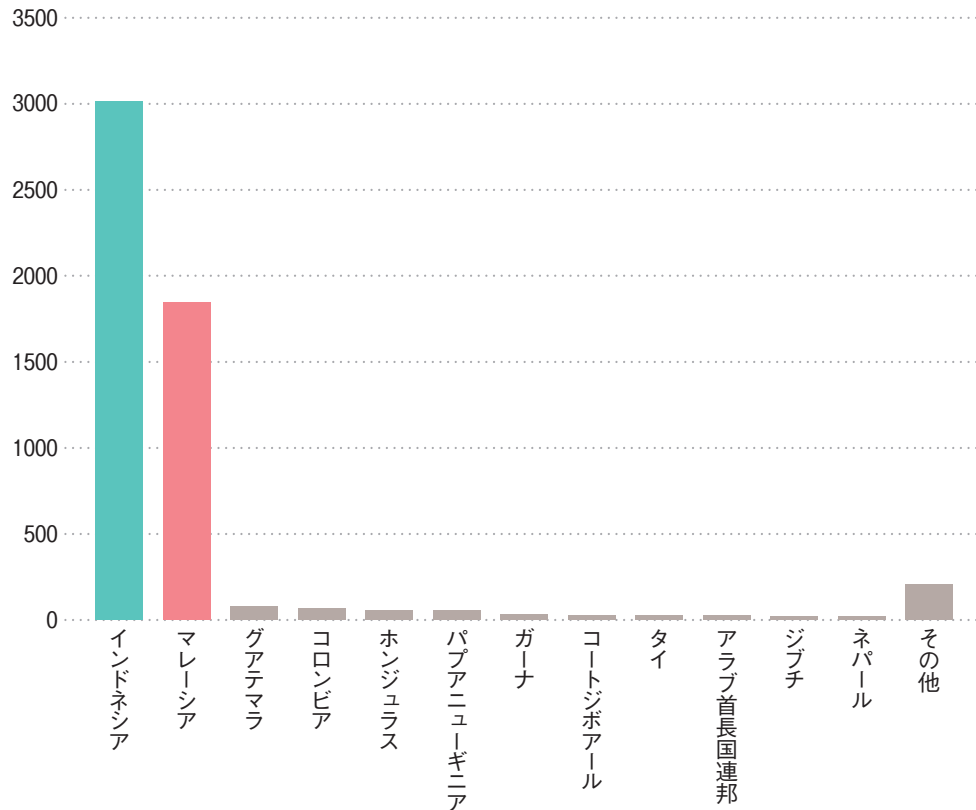
※小数点第2位で四捨五入しているため、小数点以下の合計がずれている場合があります。

統計
2-3

パーム油の国別輸出量(2019)

Source : Oil World Annual 2020

万トン



パーム油は、全生産量の72%が輸出される換金作物。パプアニューギニアではほぼ生産量の全量が輸出されている。

単位: 万トン

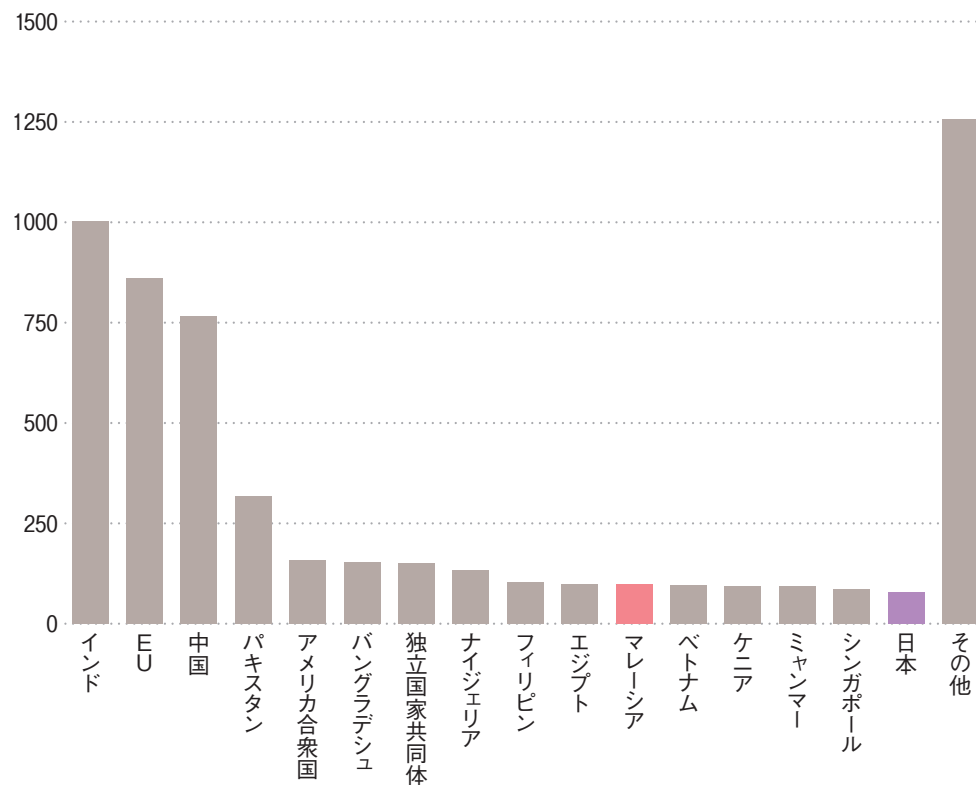
国名	輸出量
インドネシア	3011.8
マレーシア	1847.1
グアテマラ	81.2
コロンビア	69.4
ホンジュラス	57.2
パプアニューギニア	54.0
ガーナ	34.0
コートジボワール	28.2
タイ	27.5
アラブ首長国連邦	25.3
ジブチ	21.6
ネパール	21.0
その他	206.8
合計	5473.7

統計
2-4

パーム油の国別輸入量(2019)

Source : Oil World Annual 2020

万トン



輸入は昨年に比して10%増加。トップ3はインド、EU、中国。日本は少しずつ増加し、約78万トン。

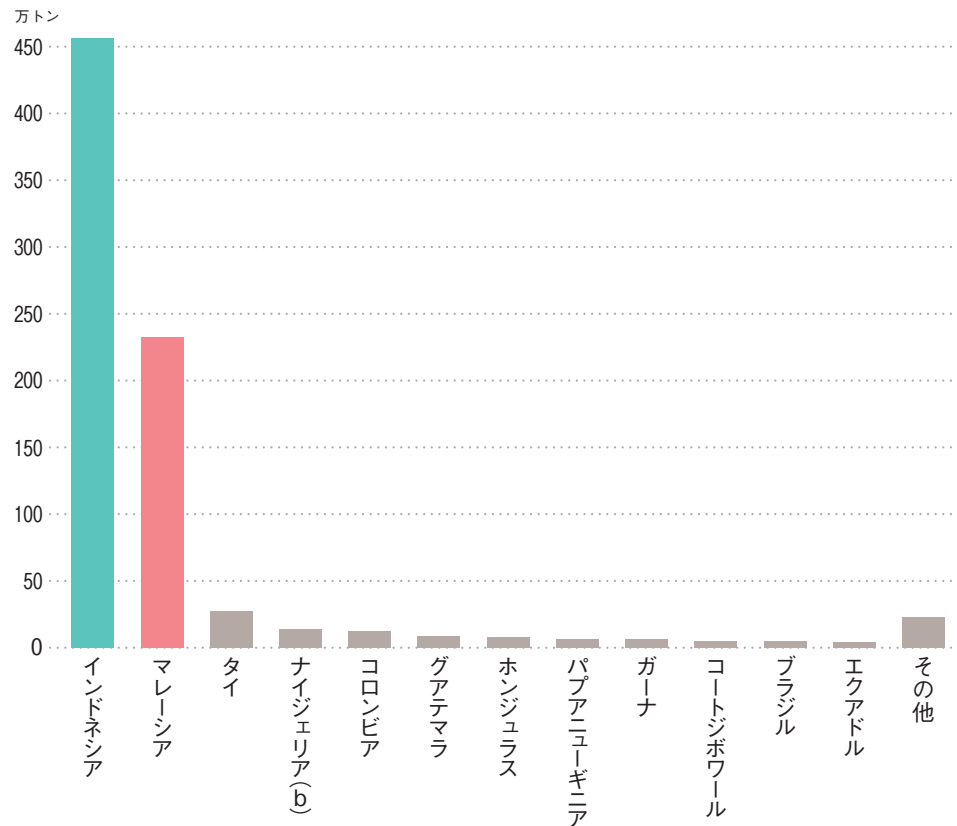
単位: 万トン

国名	輸入量
インド	1003.7
EU	860.9
中国	765.9
パキスタン	317.2
アメリカ合衆国	158.2
バングラデシュ	152.0
独立国家共同体	151.9
ナイジェリア	133.0
フィリピン	104.1
エジプト	98.8
マレーシア	97.7
ベトナム	94.7
ケニア	92.3
ミャンマー	92.6
シンガポール	85.1
日本	77.9
その他	1255.6
合計	5540.9

統計3 パーム核油

統計 3-1 パーム核油の国別生産量(2019)

Source : Oil World Annual 2020



パーム核油も昨年より生産量が増えている。インドネシアが生産量の56%、マレーシアは29%を占める。

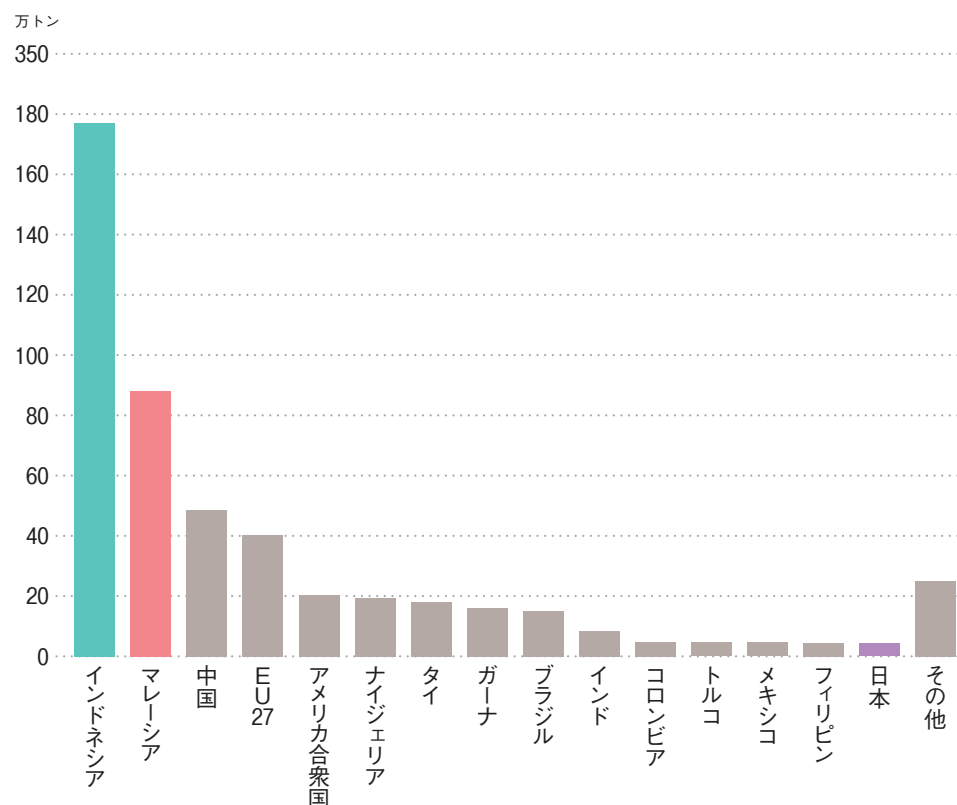
単位: 万トン

国名	生産量
インドネシア	456.0
マレーシア	232.2
タイ	27.4
ナイジェリア(b)	14.2
コロンビア	12.6
グアテマラ	8.5
ホンジュラス	7.7
パプアニューギニア	6.1
ガーナ	6.0
コートジボワール	5.2
ブラジル	4.8
エクアドル	4.1
その他	23.0
合計	807.5

注: ナイジェリア(b)は商業用収穫可能面積のみ

統計 3-2 パーム核油の国別消費量(2019)

Source : Oil World Annual 2019



TOP3はインドネシア、マレーシア、中国。パーム油消費量が多いインド、パキスタン、バングラデシュの核油消費は少ない。

単位: 万トン

国名	消費量
インドネシア	310.0
マレーシア	154.0
中国	85.0
EU 27	70.5
アメリカ合衆国	35.8
ナイジェリア	34.0
タイ	31.7
ガーナ	28.0
ブラジル	26.2
インド	14.9
コロンビア	8.3
トルコ	8.0
メキシコ	8.0
フィリピン	7.8
日本	7.5
その他	43.9
合計	873.6



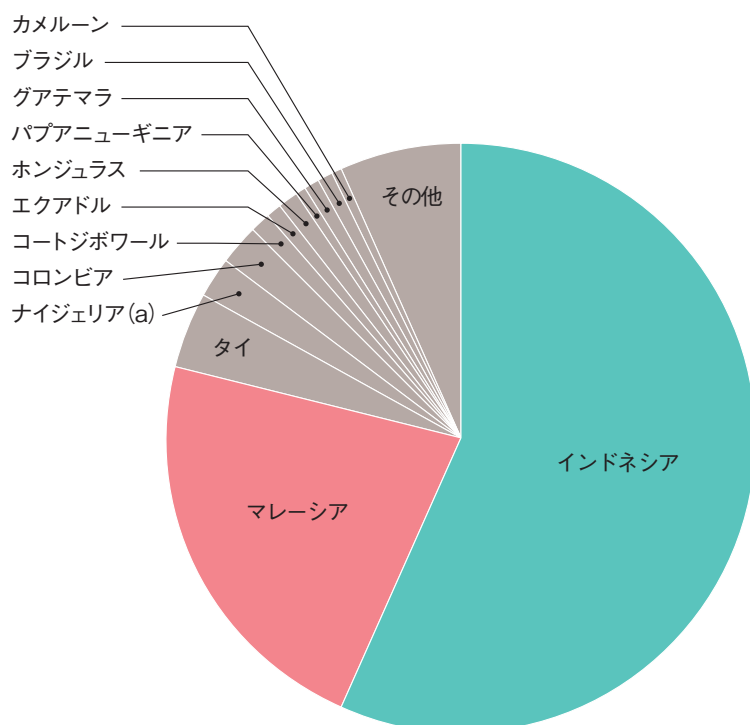
2021/02/01 17:22

統計4 アブラヤシ栽培面積の変遷

統計 4-1 国別アブラヤシ収穫可能面積・単収(2019)

Source : Oil World Annual 2020

作付け可能面積は昨年より200万ha増えているが、大部分はインドネシアである。マレーシアの単収は悪天候のため低下。



単位: 万ヘクタール トン/ヘクタール

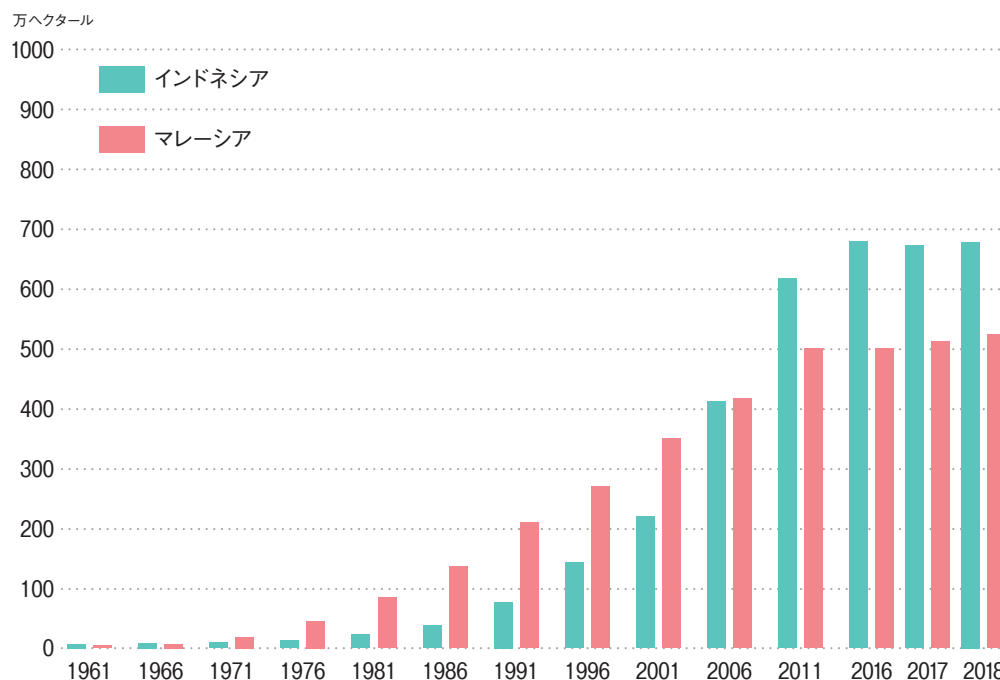
国名	収穫可能面積	単収
インドネシア	1330.0	3.35
マレーシア	524.0	3.63
タイ	94.0	3.05
ナイジェリア(a)	54.0	2.37
コロンビア	50.3	3.3
コートジボワール	31.0	1.71
エクアドル	20.5	1.71
ホンジュラス	20.0	3.7
パプアニューギニア	19.4	3.04
グアテマラ	18.8	4.87
ブラジル	16.3	3.01
カメルーン	15.5	2.03
その他	151.5	1.9
合計 / 平均	2345.3	3.25

注: ナイジェリア(a)は商業用収穫可能面積のみ

統計 4-2 インドネシアとマレーシアのアブラヤシ栽培面積変遷(2019)

Source: FAO STAT Date: 10.Oct.2020

2016、2017年のインドネシアのデータは、今年下方修正された。マレーシアの作付面積はここ10年ぐらい微増状態。



単位: 万ヘクタール

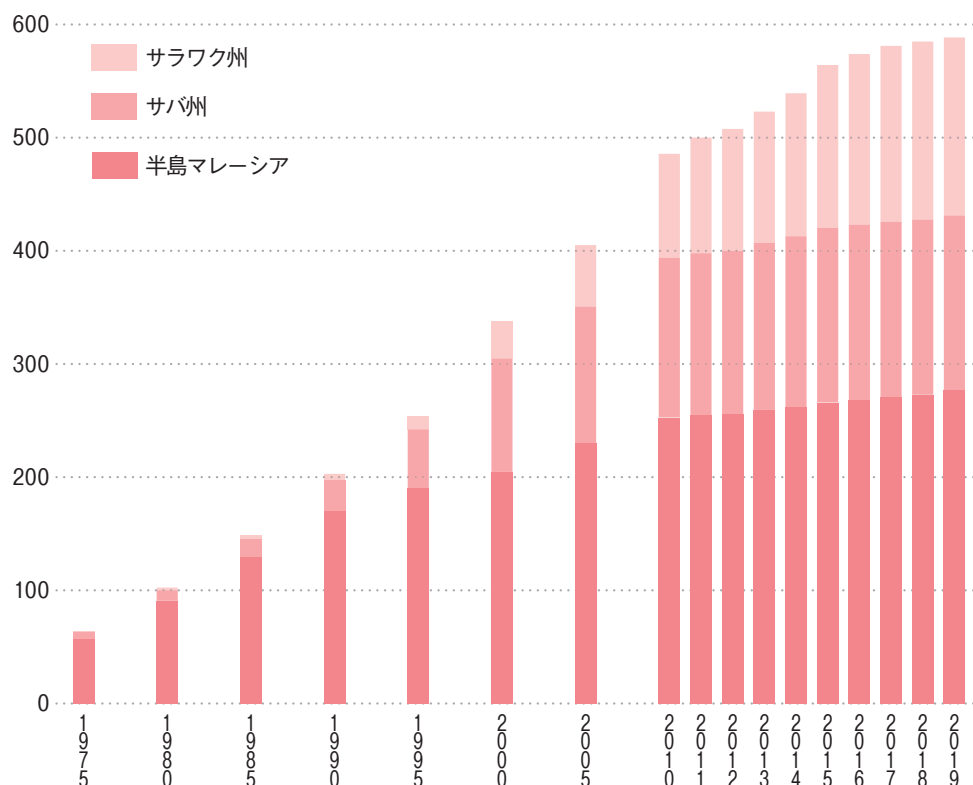
	インドネシア	マレーシア
1961	7.0	4.3
1966	8.5	6.7
1971	9.5	18.4
1976	13.0	45.4
1981	23.0	84.8
1986	37.4	136.1
1991	77.2	209.4
1996	142.8	269.2
2001	220.0	349.9
2006	411.0	416.5
2011	617.0	500.0
2016	678.1	500.1
2017	672.1	511.1
2018	677.7	523.6

統計 4-3 マレーシアの州別アブラヤシ栽培面積変遷

Source : MPOB

昨年と比して、サバ州、サラワク州はほとんど変わらず、半島だけが4万ha増加。90年代は急増したが、この5年は微増。

万ヘクタール



単位：万ヘクタール

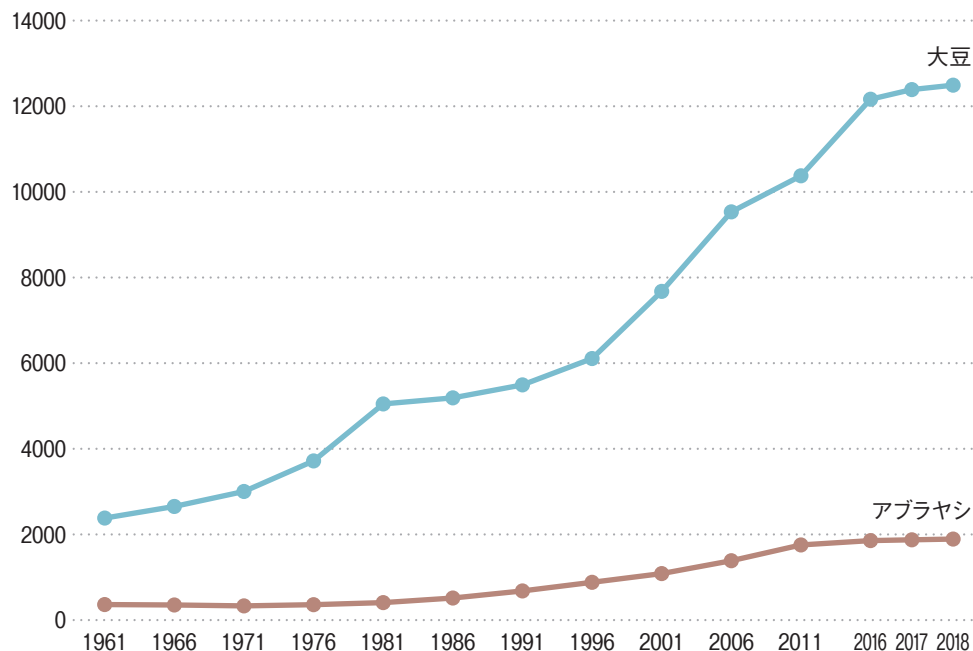
	半島マレーシア	サバ州	サラワク州
1975	56.9	5.9	1.4
1980	90.7	9.4	2.3
1985	129.2	16.2	2.9
1990	169.8	27.6	5.5
1995	190.3	51.8	11.9
2000	204.6	100.0	33.0
2005	229.9	120.9	54.3
2010	252.7	141.0	92.0
2011	254.7	143.2	102.2
2012	255.8	144.3	107.6
2013	259.4	147.5	116.1
2014	261.7	151.2	126.3
2015	265.9	154.4	143.9
2016	268.0	155.2	150.7
2017	270.8	154.7	155.6
2018	272.8	154.9	157.2
2019	276.9	154.4	157.2

統計 4-4 大豆とアブラヤシの栽培可能面積変遷

Source : FAO STAT Date : 15.Dec.2020

大豆の栽培面積はアブラヤシの約6倍だが、大豆油の生産量はパーム油の約75%にすぎない。

万ヘクタール



単位：万ヘクタール

	大豆	アブラヤシ
1961	2381.9	362.1
1966	2653.4	352.4
1971	3003.4	331.2
1976	3716.8	359.3
1981	5047.6	407.8
1986	5189.6	514.7
1991	5492.5	680.4
1996	6107.9	881.9
2001	7676.3	1085.6
2006	9533.5	1386.0
2011	10375.8	1754.4
2016	12164.0	1856.1
2017	12389.4	1874.4
2018	12492.2	1891.7

統計5 日本

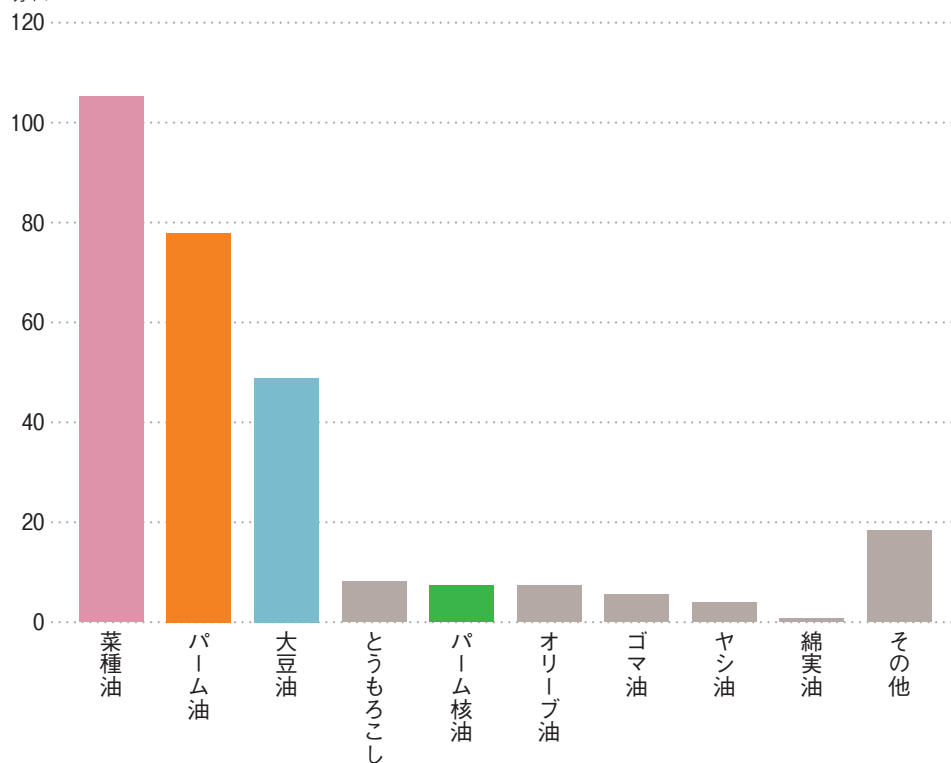
※小数点第2位で四捨五入しているため、小数点以下の合計がずれている場合があります。

統計
5-1

日本の植物油別供給量(2019)

Source: 日本植物油協会サイトより引用 資料: 農林水産省「油糧生産実績調査」、財務省(貿易統計)

万トン



単位: 万トン

種類	消費量
菜種油	105.2
パーム油	77.9
大豆油	48.9
とうもろこし	8.1
パーム核油	7.4
オリーブ油	7.3
ゴマ油	5.6
ヤシ油	3.9
綿実油	0.8
その他	18.4

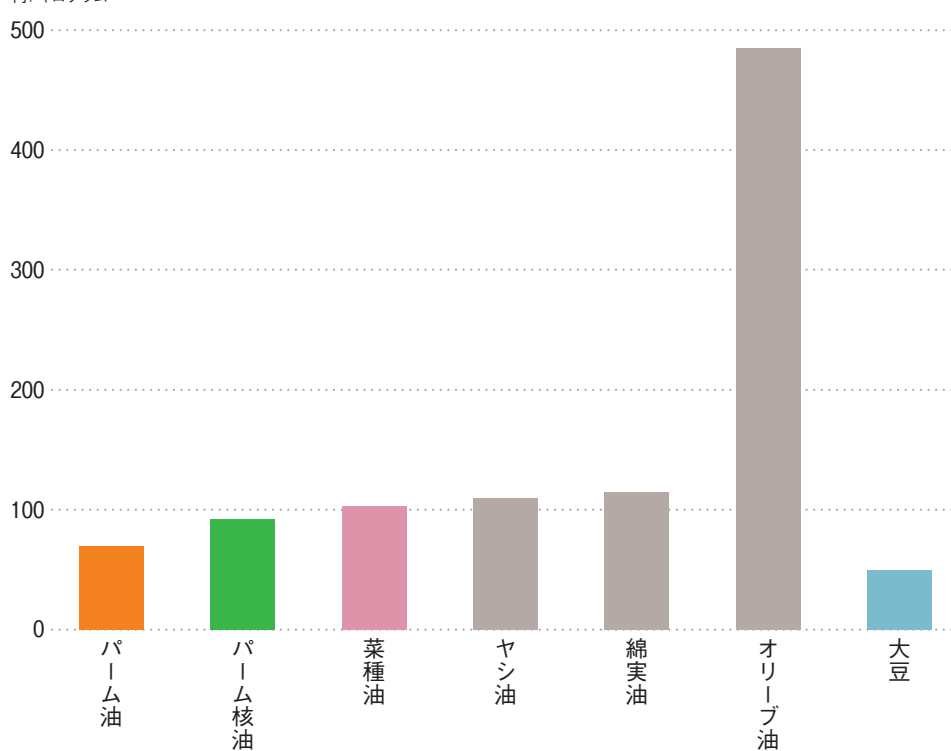
TOP3は菜種油、パーム油、大豆油でここ数年順位は変わっていない。パーム油は年々少しずつ増加している。

統計
5-2

植物油・大豆の輸入価格(2019)

Source: 財務省貿易統計 農林水産物輸出入概況

円/キログラム



単位: 円/キログラム

種類	輸入価格
パーム油	69.3
パーム核油	91.8
菜種油	102.6
ヤシ油	109.5
綿実油	114.7
オリーブ油	485.0
大豆	49.3

パーム油は「貧者の油」といわれるように植物油の中では安価である。大豆は大豆事体の価格なので単純比較はできない。

緑の回廊プロジェクト

ボルネオ保全トラスト・ジャパンは、世界有数と称されるボルネオの豊かな生態系を未来に残すため、キナバタンガン川下流域に細長く熱帯雨林が広がる「緑の回廊」をつくらせて野生動物の生息域を確保し、多様な生物が生きることのできる環境を保全するための活動を行なっています。

ボルネオ島北部に位置するマレーシアのサバ州では、数千万年ものあいだその姿をとどめていた悠久の熱帯雨林が、森林伐採やアブラヤシプランテーションの急激な開発によってわずか70年で150万ha以上も消失しました。野生動物は生息地を追われ、数も減少しています。

生物多様性の宝庫と称されるボルネオ島のなかでも有数の地域のひとつ、サバ州北東部を流れるキナバタンガン川流域でも大規模な開発が進みました。下流域の野生動物保護区は、プランテーションや私有の森に囲まれ、つながって

いません。開発が進めば、野生動物の生息地がさらに狭まって自由な移動は遮られ、繁殖は阻まれ、遺伝子の多様性も低下します。

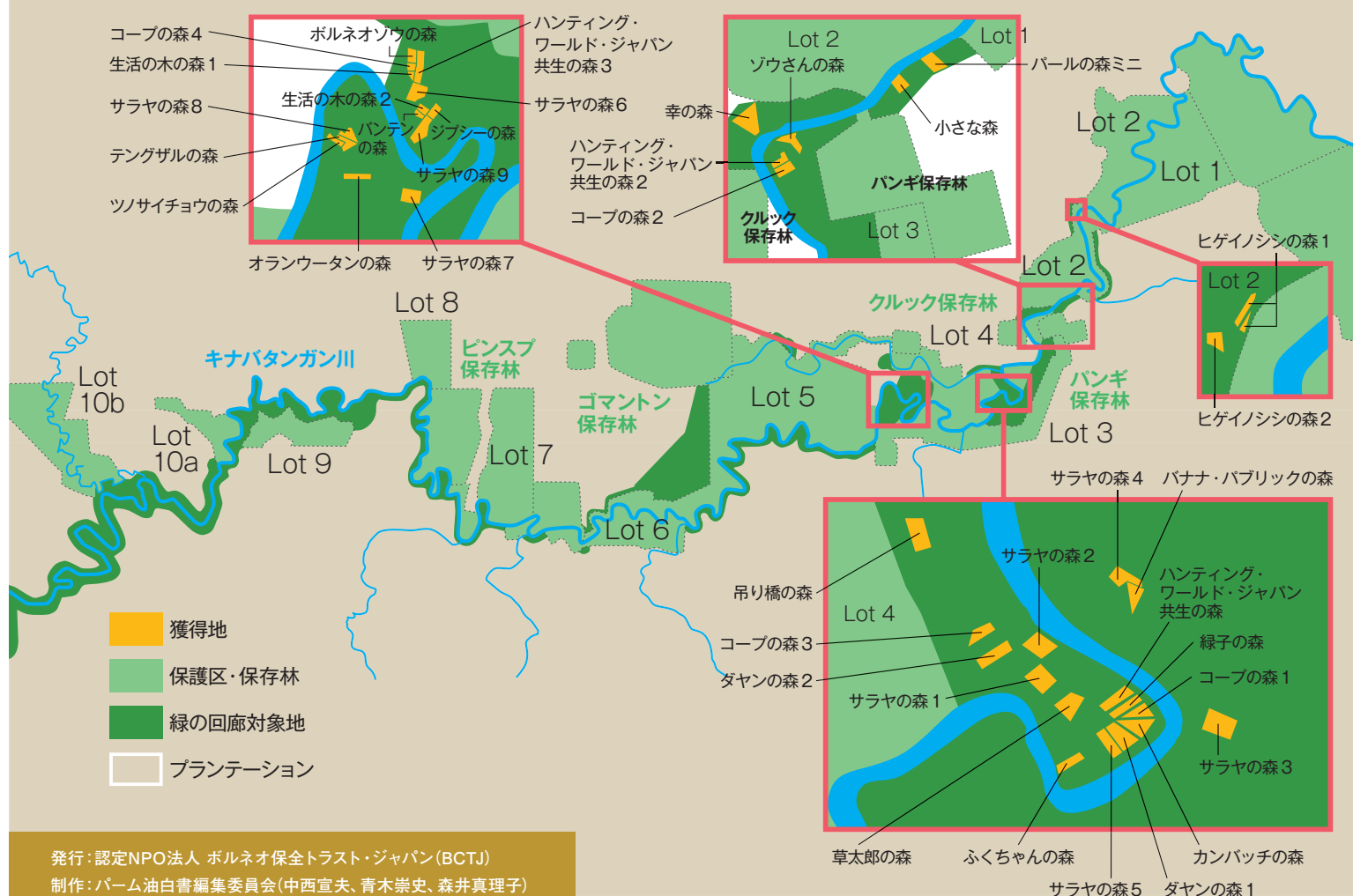
キナバタンガン川下流域の生態系を繋ぐためには、野生動物が自由に移動できるように保護区と保護区の間に残る森をつなげた大きな「緑の回廊」が必要です。その実現のため、2006年にサバ州政府機関や企業によって「ボルネオ保全トラスト（BCT）」が設立されました。

2008年にはプロジェクトの実行を目的に「ボルネオ保全トラスト・ジャパン

（BCTJ）」が活動をスタート。みなさまのご支援によりこれまでに1.3億円を超える寄附金が集まり、およそ100ヘクタールの土地を緑の回廊として獲得しました。また獲得した土地を保護区とするために、サバ州政府に寄贈する手続きも進められています。

生物多様性の保全は21世紀の人類共通の大きな課題です。私たちはこれからもボルネオの地で生物多様性保全活動、自然環境保護活動に全力で取り組みます。今後とも末永いご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

完成予想図と現段階(2021.1)までの取得地





認定NPO法人
ボルネオ保全トラスト・ジャパン
(BCTJ)

〒140-0002 東京都品川区東品川 1-25-8

Tel ■ 03-3471-4966

URL ■ <http://www.bctj.jp>

Facebook ■ <https://www.facebook/bctjapan/>

Twitter ■ <https://twitter.com/bctjapan/>

E-mail ■ info@bctj.jp



定価 **600円** (本体545円+税55円)

発行：2021年2月